

「全国学力・学習状況調査」平均正答率東京都との差				「江戸川区学力調査」平均正答率全国との差							
学年		第3学年		学年		第1学年			第2学年		
年度	国語	数学	合計	年度	国語	数学	英語	国語	数学	英語	
令和12年度の目標				令和12年度の目標							
令和11年度の目標				令和11年度の目標							
令和10年度の目標				令和10年度の目標							
令和9年度の目標				令和9年度の目標							
令和8年度の目標	-1	-4	-5	令和8年度の目標	-3	0	+2	+1	0	+3	
令和7年度の結果	-2	-6	-8	令和7年度の結果	-4.2	-0.6	+1.6	+0.8	-0.3	+2.4	
令和6年度の結果	-2	-8	-10	令和6年度の結果	-0.4	-1.5	0.0	-0.8	+2.1	+2.1	
令和5年度の結果	-5	-8	-13	令和5年度の結果							

年度	令和7年度		令和8年度			
内容	成果と課題	目標	目標達成に向けた取組			
学校全体	<p>【成果】英語を中心に全国平均を上回る領域が多く、特に「書くこと」や思考・判断・表現など、言語化を伴う表現領域で安定した成果が見られる。国語では2年生を中心に知識・技能や読む・書くの領域が全国平均を上回り、基礎的な言語力が着実に育っている。数学でも「数と式」や「図形」など基礎領域で全国平均を上回る学年があり、学習内容の定着が進んでいる。また、英語では1・2年ともに知識・技能・思考・判断・表現が全国を上回り、総合的な英語力の向上が確認できる。さらに、どの学年でもB層が比較的厚く、学習の基盤となる中間層が安定している。</p> <p>【課題】国語の「話すこと・聞くこと」は1・2年ともに全国平均を下回り、学校全体として継続的な弱点となっている。数学では関数やデータの活用など、思考力を要する領域で全国平均を下回る傾向が強く、応用的な問題への対応力が十分に育っていない。英語では「聞くこと」が1・2年ともに全国を下回り、技能間のバランスに課題がある。どの学年でもD層が2～3割存在し、学力差が大きい構造が続いている点も学校全体の課題である。</p>	<p>基礎的な学力の定着を目指し、全学年でA・B層の割合を高めるとともに、D層の縮小を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 漢字や計算の小テストを各学年、学期に一度以上実施する。 各学期に「江戸川っ子study week」を実施し、ドリルパークを活用する。 放課後学習教室（EDOスク）を活用し、CD層の生徒の基礎学力の定着を図る。 ドリルパークで苦手分野の復習を実施する。 面談時に保護者に学習の様子を伝えるなど家庭との連携を図る。 学年だよりなどで家庭学習の取り組み方を紹介する。 定期検査前補習を実施し、学習習慣の定着を図る。 定期検査前補習への参加を促すとともに、既習内容の復習に取り組むように呼び掛ける。 課題の中で問われていることは何かを確認する指導をする。 			
第1学年	<p>【成果】英語を中心に全国平均を上回る領域が多く、特に英語の「書くこと」は全国平均との差+3.7と大きな強みが見られる。知識・技能や思考・判断・表現も全国を上回り、英語では総合的にバランスの良い学力が育っている。また、数学では関数が全国平均をわずかに上回り、B層が30%と中間層が厚く、基礎的な理解が一定程度定着している。国語でも「書くこと」は全国との差が比較的小さく、表現に関わる領域で一定の成果が確認できる。</p> <p>【課題】国語の課題が顕著であり、A層25%に対してD層が34%と下位層が多い構成となっている。特に「話すこと・聞くこと」は全国比-7.6と下回り、最も深刻な弱点である。知識・技能・思考・判断・表現、読むことなど国語の全領域で全国平均を下回っており、基礎的な国語力の底上げが急務である。数学でも知識・技能(-0.3)、思考・判断・表現(-1.6)が全国を下回り、基礎と応用の両面で課題が残る。英語では「聞くこと」が全国比-0.8弱く、C・D層が43%と一定数存在するため、基礎層の支援が必要である。</p>	<p>国語・数学・英語の基礎的な学力を確実に定着させ、D層の割合を減らす。</p> <p>特に国語の「話すこと・聞くこと」、数学の基礎技能、英語の「聞くこと」の改善を図る。</p>	<p>国語：話す・聞くの強化 ペア・グループでの説明活動、要点整理の指導、聞き取りの観点提示など、対話的活動を日常化する。</p> <p>数学：基礎技能の徹底反復 小テストや単元前の基礎確認を定期化し、計算・基本問題の確実な定着を図る。</p> <p>数学検定を実施する。</p> <p>英語：聞く力の強化 短いリスニング素材の毎日実施、音読とセットでの聞き取り練習を取り入れる。</p> <p>全教科共通：学習習慣の確立 宿題や週末課題などの定着、学習計画の立て方の指導など、中学校生活の基盤づくりを重視する。</p>			
第2学年	<p>【成果】国語と英語を中心に全国平均を上回る領域が多く、学力の安定が見られる。国語では知識・技能(+1.5)、書くこと(+2.5)、読むこと(+1.0)が全国を上回り、1年生よりも上位層が増加している点が大きな成果である。英語でも知識・技能(+2.0)、思考・判断・表現(+2.6)が全国を上回り、読む・書くの両面で安定した力が育っている。数学では「数と式」(+2.7)や「図形」(+0.6)が全国平均を上回り、基礎的な領域での理解が進んでいる。</p> <p>【課題】国語の「話すこと・聞くこと」は全国比-3.6と弱く、1年生からの継続課題となっている。数学では関数(-4.0)とデータの活用(-3.1)が全国を下回り、学年全体の弱点として明確である。また、思考・判断・表現(-0.7)も全国を下回り、応用的な問題への対応に課題が残る。英語では「聞くこと」が全国比-6.9と下回り、技能間のバランスに課題が見られる。各教科でD層が2割以上存在し、学力差の縮小と基礎層の支援が引き続き必要である。</p>	<p>国語・英語で見られる全国平均以上の力を維持・発展させ、A層の割合をさらに増やす。</p> <p>数学の「関数」「データの活用」など弱点領域を重点的に補強し、学力のバランスを整える。</p>	<p>国語：話す・聞くの改善 発表・討論・説明活動などの取組みを計画的に行う。</p> <p>数学：弱点領域の重点補強 関数の基礎理解、グラフの読み取り、データの比較・説明など、弱点領域に特化した演習を実施する。</p> <p>英語：聞く力の底上げ 聞く→話す→書くの連動型活動を取り入れ、聞き取りの負荷を段階的に高める。</p> <p>全教科共通：思考力・判断力・表現力の育成 記述式問題への取組みを増やし、根拠を示して説明する活動を継続的に行う。</p>			
第3学年	<p>【成果】国語では、基礎的な知識・技能が安定して高く、「書くこと」の領域でも全国平均を上回るなど、表現の基礎がしっかり育っている。また、AB層の割合が全国より高く、国語への関心も全国平均を上回っており、学習意欲の面でも強みが見られる。数学では、「データの活用」領域の記述式問題に強みがあり、複数年にわたり高い成果を示している。また、数学への関心が全国より高く、学習意欲が改善の基盤となっている。</p> <p>【課題】国語では、「話すこと・聞くこと」の弱さが継続しており、対話的な活動や説明力の育成が課題となっている。「読むこと」の改善が十分でなく、読解力の底上げが必要である。さらに、A層の割合が都平均を下回っており、上位層育成が不十分であること、記述式問題の無解答率が高いことも改善すべき点である。数学では、基礎的な知識の習熟不足が最大の課題である。関数・図形の領域の弱さも継続している。思考・判断・表現の問題で全国平均を下回り、記述式問題の無解答率も高い。</p>	<p>高校進学に向けて、全教科でA・B層の割合を高め、学力の安定を図る。</p> <p>記述式問題への対応力を強化し、思考の言語化を確実にできるようにする。</p>	<p>国語：読解・記述の強化 記述式問題の添削指導、文章構成の指導、要約・意見文の練習を継続的に行う。</p> <p>数学：応用問題への対応力向上 関数・図形・データの活用を中心に、入試を見据えた思考力問題に取り組む。</p> <p>英語：総合的な技能の統合 聞く・読む・書く・話すを組み合わせた総合演習を行い、実践的な英語力を育てる。</p> <p>全教科共通：学習計画と自己管理の強化 定期テスト等の振り返りを徹底し、自ら学習を調整できる力を育てる。</p>			